【公表の参考様式（管理機関用）】　　別添３（記入例）

令和　５年　６月１日

令和４年度　特別の教育課程の実施状況等について

宮城県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
七ヶ浜町立亦楽小学校（外２校）	七ヶ浜町教育委員会	公立

１．学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学　校　名	特別の教育課程の編成の方針等の公表 URL
七ヶ浜町立 亦楽小学校	七ヶ浜町立亦楽小学校ＨＰ・英語コミュニケーション www.joint5.jp/ekiraku/ekiraku00/English_com.html
七ヶ浜町立 松ヶ浜小学校	七ヶ浜町立松ヶ浜小学校ＨＰ・英語コミュニケーション www.joint5.jp/ekiraku/ekiraku00/English_com.html
七ヶ浜町立 汐見小学校	七ヶ浜町立汐見小学校ＨＰ・英語コミュニケーション www.joint5.jp/ekiraku/ekiraku00/English_com.html

※町内３校が共通のカリキュラムで行う英語コミュニケーション科に関する教育課程の編成の方針等に関する情報は，３校同一として各校ＨＰから亦楽小の該当ページへバナーからリンクさせている。

２．学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学　校　名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
七ヶ浜町立 亦楽小学校	七ヶ浜町立亦楽小学校ＨＰ・英語コミュニケーション www.joint5.jp/ekiraku/ekiraku00/English_com.html	左に同じ
七ヶ浜町立 松ヶ浜小学校	七ヶ浜町立松ヶ浜小学校ＨＰ・英語コミュニケーション www.joint5.jp/ekiraku/ekiraku00/English_com.html	左に同じ
七ヶ浜町立 汐見小学校	七ヶ浜町立汐見小学校ＨＰ・英語コミュニケーション www.joint5.jp/ekiraku/ekiraku00/English_com.html	左に同じ

※町内３校が共通のカリキュラムで行う英語コミュニケーション科に関する評価の公表は，３校同一報告書として各校ＨＰから亦楽小の該当ページへバナーからリンクさせている。

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

（・計画通り実施できている
・一部、計画通り実施できていない
・ほとんど計画通り実施できていない）

（２）実施状況に関する特記事項

町内３小学校と２中学校で「英語コミュニケーション推進委員会」を組織し，授業作り，成果と課題の共有，情報交換等を行う協働体制を整えている。推進委員は各校でのカリキュラムマネジメントの中心となり，指導者及びＡＬＴとの効果的連携を進めるとともに，各校間の調整を図る役割を果たしている。

令和４年度は，９月～１２月に学校間公開（通算第Ⅵ期）を実施し，町内教員の研修を継続している。３小学校合計で３０コマの授業を公開した。

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

（・実施している
・実施していない）

＜特記事項＞

・保護者に対しては，学習参観，学校だより等の文書，ホームページ等を活用して随時情報を提供している。
・地域住民に対しては，町の広報誌の特集記事での発信に加え，学校だより等での情報提供を行っている。
・他県より視察があり，授業を公開したり，英語コミュニケーションの取組みについて説明したりすることがあった。

４．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

これまでの「話す」「聞く」活動の積み上げに加え，「書く」「読む」活動の量を増やしたことで，自己の技能を高めようとする意欲が増し自信としている児童が増えた。英語で友達とコミュニケーションをとり，お互いを理解することに楽しさや満足感を感じる児童が増えた。高学年では半数程度の割合ではあるが，英語を書いたり読んだりすることに楽しさを感じる児童がいる。また，振り返りの時間に感想に加えて思考的要素（Why ～?　Because ～.）を取り入れ，学習のねらいを意識したことで，充実した学びにつながった。

英語コミュニケーション科においては，「明るく，楽しく，面白く」を教育課程の編成及び指導

上のアプローチの土台としている。その上で，積極的なコミュニケーション活動を展開することにより，学校が教育目標として目指している「よく考え，進んで学ぶ」児童の育成の具現化に深く関わると考える。また，必然性のあるコミュニケーションの経験を積むことによって，他者や社会との積極的な関わり方を学ぶ資質や能力（自分の頭で考え，自分の言葉で意見や考えを伝えあうことができる力）を高めることができると考える。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

初等教育においては，生涯にわたり学習し続ける基盤を作るため，基礎的な知識や技能を習得させるとともに，その過程において思考力，判断力，表現力等を身に付けるために必要な学習に取り組む態度を養うことが重要である。本特例における取組は児童が将来出会う多様な社会において必要なコミュニケーション力を身に付けるとする学校教育の目標に合致するものと考える。

５．課題の改善のための取組の方向性

「話す」「聞く」活動の積み上げに加え，英語を「書く」活動や「読む」活動の量が増えたことで，自己の技能を高める意欲が増し，「書く」「読む」ことに対して楽しさを感じる児童が増えた。

一方，アンケートの結果には「友達同士で伝え合うのは楽しい」「友達とのコミュニケーションが楽しい」という回答が見られた。これまでに取り組んできた「向上心を高く持ち，英語の技能をより高いレベルで獲得できる」ような取組みに加えて，今後は，「英語を通して自分の頭で考え，自分の言葉で意見や考えを伝え合うことができる力」の育成を図るために，やりとりに必然性を持たせ，「話す」「聞く」双方向のコミュニケーション活動となるようにする取組みにしていくことが重要である。

本特例では，児童の実態に合わせた授業作りを日常的に行っていることから，いわゆる４技能５領域をバランス良く伸ばす取組を進めている。さらに，中学校英語科への学びの意欲の継続と授業作りの改善のため，これまで同様，小学校３校と中学校２校を合わせた協働での授業参観と検討会を行っていくこととしている。